

## ま え が き

生物研究をしている先生が話してくれました。サルを社会をよく調べると、サルは人間とたいへんよく似ているので驚くほどである。しかしサルと人間とはちがっているところもある。それは、たとえばあるサルがサツマイモを食うとき、偶然海水で洗ってから食ったらかなかうまいことがわかった。それからいつもそうしているのを見た他のサルが、まねをしてみる。その次のサルも、見ては次々にまねをするようになった。最初のサルは次のサルに教える、といちようなことがそこにはなく、次のサルも第三のサルに教えるということとはなかった。すなわち、サルには他を意識的に教育するということは見られない。これが人間とちがう点である、といひます。

すると、教育するということは、霊長類の中で最も人間的な仕事であるということになります。われわれは学校等で児童生徒に教えています。教職という職は単なるメシのタネであってはなりません。ミチのタネでもあるところに特徴があります。が、さて学校教育の実際にはちがって見ますと多くの問題があります。児童生徒の学力を向上させることは本県の重大課題の一つであります。学力とは何か、というめんどろになります。文部省が多年行なってきた全国学力調査の結果によれば、本県の学力水準は低いこととなります。これは問題です。本県の児童生徒はアタマが悪いのか、生活環境がよくないのか、先生の教え方に手落ちがあるのか。

当教育センターの前身、新潟県立教育研究所では、昭和38年度から文部省全国学力調査の分析的研究に着手してきました。それは、文部省の調査問題を解答するのに必要な基礎的知識・理解や、解答を出すまでの思考過程や思考傾向を見ようとする問題を、研究所で独自に作って調査を実施したものです。設問の表現・形式も検討を加え、面接調査も行なって正確を期するなど苦心をしてきました。41年度も国語と算数・数学について分析的研究を始め、8月に教育センターになったのでそのまま引きつぎ、年度途中での研究体制の変動に伴い多くの困難を経ながらも、ここに研究紀要第58集としてまとめました。学力向上の参考資料として役立てていただければ幸いです。

学習指導に関する研究は、学力向上のための学習指導改善の方途について、思考・態度などの内面的なはたらきの様態に基づいて基礎的考察を加えたものであります。この研究は昭和39年度から3か年計画で始めたもので、2か年の研究をもとに、調査はさらに方法をくふう改善して実施し、具体的に実験授業も行ないました。児童生徒の思考力・態度などの様態とその形成の方法を、国語・社会・算数数学・理科・シート学習にわたり基礎的に考察した結果をここに研究紀要第60集として収めました。ご批判をいただければ幸いです。

終わりに、これらの研究に絶大なご協力をいただきました研究協力校の学校長はじめ関係教職員各位ならびに児童生徒に対し、心から感謝の意を表します。

昭和42年3月23日

新潟県立教育センター 所長 池 政 栄